

第4回北葛北部在宅医療・介護連携推進会議 議事録

平成29年3月23日（木）午後6時30分～ 場所：ウェルス幸手 出席者数：30人
チーム員：3人
事務局：4人

司会：幸手市介護福祉課 関森

1 開会

2 あいさつ

杉戸町高齢介護課 武井課長

議事 進行：北葛北部在宅医療・介護連携推進会議 委員長 中野先生

3 地域の医療・介護資源の把握（リスト・マップの作成）について

説明：在宅医療連携拠点 外園氏

※別添資料参照

平成29年1月に幸手市・杉戸町の医療機関および介護事業所を対象にアンケート調査を実施した。（全体の回収率は、54%）

別添資料にあるように、医療機関・介護事業所等のマップ（冊子）（案）と医療機関・介護事業所の各種対応状況を示したリストを作成した。

司会（進行）中野先生：リストについては、かなり細かい膨大な情報となっているが、この情報の利用について

- A ホームページなどに掲載し広く住民に周知する
 - B 菜のはな、地域包括支援センター、行政などの連携拠点で把握する
 - C B案+推進会議参加団体で保管し、運用は団体ごとに検討する
- の3案を提示するが、皆さんのご意見を伺いたい。

医師会：最近開業した医療機関（杉戸）がマップに載ってない。医師会に加入していない医療機関をどうするのか、確認を取った方がいい。

医師会：リストについては、かなり詳細な情報となっているので情報だけが独り歩きするのは困る。

医師会：認知症のサポート医の掲載については、控えたい。B案でいいのではないか。

歯科医師会：歯科医師会に加入していない所がのっているが、その辺はどうしてか。

中野先生：歯科医師会に入っていない方の掲載については、今一度確認する。

歯科医師会：杉戸町の歯科医師で訪問診療をできるところが少ない。

中野先生：リスト掲載について、個々に相談していく。

薬剤師会：在宅対応について、要相談となっている所もあるが家庭内の事情やケアの内容について困難事例には対応できない。B案で当初進めていくくらいがいい。

薬剤師会：一人薬剤師が多いので、在宅対応は忙しくて出来ないのではないかな。

埼玉県栄養士会：栄養士が地域に（在宅）に出ていくことは難しい。栄養のことは、毎日の生活に欠かせないものなので、分からないことがあれば郡市医師会に聞いてもらう方法がある。B案又はC案でいい。

介護支援専門員連絡協議会：ホームページに掲載した場合、誰がどのように活用するのか分からない。

訪問看護ステーション：わかりやすくして、B案かC案に。

介護支援専門員連絡協議会：ケアマネとして訪問診療や訪問歯科について、利用者から聞かれることが多い。C案位でいいのかも。

民生委員：ホームページに載せてほしい。

民生委員：C案がいいのではないかな。

中野先生：情報開示の範囲についての議論になっているが、A・B・C案のうちどれにするか議決の場ではないので、今後各団体の意見を直接出向いて伺い、検討していく。B案C案を軸に次回の推進会議で図っていく。

医師会：ホームページに掲載といっても、北葛北部医師会のホームページなのか、杉戸町・幸手市それぞれのホームページから、紹介として掲載されるのか、載せ方はいろいろある。

中野先生：どういった情報を開示していくのか、住民周知の観点からホームページ掲載案を提案した。掲載の仕方についても検討していく。

4 ICTの導入に向けての運用ルールについて

説明：在宅医療連携拠点 大久保氏

埼玉県医師会と埼玉県が推奨する医療介護連携システム（メディカルケアステーション・MCS）の導入研修を3回実施した。医師会や介護事業所の方々200人弱の参加を得た。参加者からは、関心はあるが、どのように使うのか分からない。今後は、医療機関・事業所を個々に訪問して普及・啓発に努めたい。運用ポリシー（案）について一読願いたい。MCSの利用上の留意事項について、ご意見等あったら連絡してください。また、実際にMCSに参加してほしい。

中野先生：埼玉県医師会の方でMCSという医療・介護版のSNSのようなものを用意してくれた。セキュリティが厳しく管理されているが運用ポリシーは必要である。利用しながら運用ポリシーの確認をしていきたい。来年度は、MCSの周知を体験会等を通して行っていきたい。

薬剤師会：薬剤師会の定例会で説明をしていただき、活用方法の広がりが見えてきた。

5 認知症に関する取組みについて

説明：中野先生

今年度のケアカフェにおける認知症ケアに関する検討と進捗状況について

2つの講演会を開催した中で、①認知症は誰でもかかる病気であり、かかっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができる。②認知症の理解が深まって、認知症であろうがそうでなかろうが、自分らしい暮らしができる。(認知症を持っている人が住みよい地域というのは誰にとっても住みよい地域である。)ということの共通認識を得られた。

結果、①地域で支えるために②多職種協働と医介連携③認知症のケアのさらなる向上④地域社会の理解という4つの柱をもとに意見交換を行ってきた(別紙：ケアカフェ幸せ杉研修会)。この意見に4つの論点を加え、誰もが住みやすい地域づくりについて、次回の推進会議で議論の進め方を提示したい。

報告：議事には無いが、在宅医療連携拠点「菜のはな」においての取組状況について、具体的な内容をまじえて報告した。①「暮らしの保健室」活動は、幸手市・杉戸町の居場所に菜のはなが出張して、生活や健康に関する相談を受け、必要に応じて在宅医療にもつなげていく。平成24年の4か所から始まって、今年度35か所までに増えた。年間の参加者数は、2709人となり843件の相談を受けた。工務店・お寺・カフェ・うどん屋さん・サロン等に定期巡回している。居場所に参加する男性の比率も増加している。看護師が対応しているので、医療面の相談が中心で、生活に関する相談は地域包括支援センターや行政に案内している。在宅医療連携拠点で、在宅診療につないだケースは22件ある。県外の医療機関からの相談も受けている。

6 認知症初期集中支援チーム検討委員会について(報告)

説明：濱名

認知症初期集中支援チーム検討委員会を北葛北部在宅医療・介護連携推進会議において実施することは、前回の推進会議で承認を得た。今回は、支援チーム員の紹介を行った。

サポート医 山根有人先生(杉戸町山根医院)

チーム員 幸手東地域包括支援センター 中田氏・中村氏

幸手西地域包括支援センター 金子氏・狩野氏

杉戸町すぎと地域包括支援センター 山崎氏・長岡氏

杉戸町良宝園地域包括支援センター 榎原氏・上原氏

平成29年度から認知症初期集中支援チームの活動をしていく。

7 連絡事項

平成28年度の在宅医療・介護連携推進事業の実施状況について報告。

次回の推進会議は、6月を予定。内容は、平成29年度事業実施計画および今回の議案でもあった資源マップ・リストについて報告予定。また、第2回認知症初期集中支援チーム検討委員会同時開催予定。